

## 遠野で「しいたけ原木伐採講習」開催される

10月10日に、遠野市附馬牛町の大出地区の山林で、林業振興課主催のしいたけ原木伐採講習会が開かれました。参加者は23名で、新規参入者も数名参加しました。現地は採草地跡の緩斜面に成立したコナラ林です。林齢は35-40年、胸高直径は10-20cm、樹幹は通直で、コナラの割合も高く、原木を採ることに適した林です。

穏やかな秋晴れの午後、現地で地面に腰を下ろし、まずは菊池上席林業普及指導員（林技セ）から、原木伐採の基本技術に関する講義を受けました。続いて、鈴木廣志さん（早池峰原木椎茸生産組合長）が、伐採に関して説明しつつ、模範演技を行いました。その要点は・・・

- ・ 2-3分紅葉で伐採し、半月間葉枯らしした後に玉切りする。
- ・ 萌芽の発生を促すために、地際から伐倒する。伐採前には林内を刈払う。
- ・ 伐採後は6年間、下刈りを行い、10年目に除伐、同時に萌芽も1-2本に整理する。

伐倒木の中には、樹冠が偏心した難しい木もありましたが、鈴木さんは追い口を入れる方向やツルの残し方など、随所に名人芸を見せて、難なく、かつ安全に伐倒していました。

このあと、受講生から希望者を募り、実際に伐倒、玉切りを体験してもらいました。受講者の一人で、最近しいたけ栽培を始めたM越さんは、「実際に原木を伐採することができて参考になった。今後は先達について実践、修行を重ねたい。」と語りました。なお、M越さんは、10月19日に遠野で開催される新規参入者向け講習会にも参加する予定なので、今回の研修とのダブル効果が期待できます。



講師を務めた鈴木廣志さん



伐倒する受講者